



HOKKAIDO[®]

ベスト シーニックバイウェイズ プロジェクト2023 応募プロジェクト一覧

🌸 ベスプロ2022 最優秀賞 🌸 萌える天北オロロンルート 自転車ツーリング事業



自転車キーワードとする協働のまちづくり



- ・自転車ツーリング事業の企画段階ではコース選定や立ち寄り先を紹介
- ・事業当日は2泊3日寝食を共にしながら、安全走行のための伴走やエイドの設営などをフルサポート(令和3年及び令和4年)



- ・苫前商業高校と協働でサイクルラックを製作
- ・高校生がオススメする町内施設にサイクルラックを協働で設置

シーニックバイウェイ北海道推進協議会

① 美しい景観づくり



1. ～“流氷を見ながらドライブを”地域のおもてなし活動を継続中～
R334ガードレールの雪かきボランティア活動
(東オホーツクシーニックバイウェイ)
2. ～秋田県「のしろ白神のみち」×「函館・大沼・噴火湾ルート」～
海を越えた“美しい景観づくり”の相互交流プロジェクト
(函館・大沼・噴火湾ルート)
3. **サスティナブルな景観づくりマスタープランの再構築と実施**
(釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ)
4. ～住民・観光客にとっての憩いの場・桜の名所を目指して～
エゾヤマザクラの維持管理及び補植活動
(候補)日高シーニックバイウェイ)

様式（★指定・候補ルート共通）

活動名称

秋田県「のしろ白神のみち」×「函館・大沼・噴火湾ルート」
海を越えた“美しい景観づくり”の相互交流プロジェクト

エントリー部門

美しい景観づくり

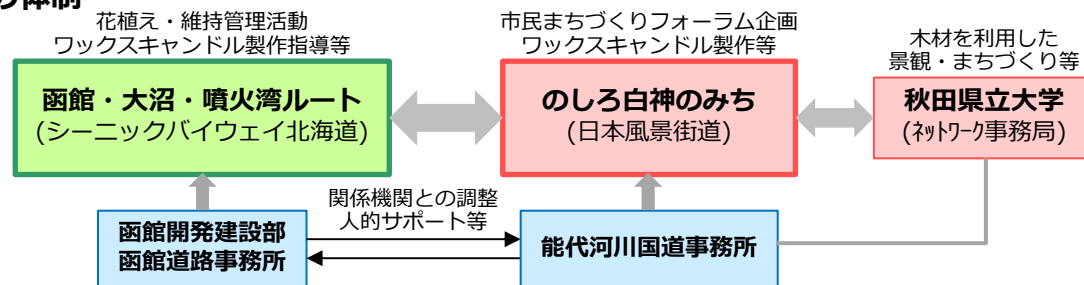
ルート名称

函館・大沼・噴火湾ルート

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

- 活動の目的・目標：
 - ・秋田県「のしろ白神のみち」×「函館・大沼・噴火湾ルート」が美しい景観づくりを軸として海を越えて連携し、相互交流による地域資源や活動ノウハウ等の共有、人的な交流の促進を通じて、お互いのルートがこれからも持続的に発展していくこと。
- 活動内容：①「第13回「のしろ市民まちづくりフォーラム」への参加(H30年度 函館⇒能代)
 - ②「スキルアップセミナーin札幌」への参加（R4年度 能代&函館⇒札幌）
 - ③「はこだて花かいどう」への参加（R5年度 能代⇒函館）
 - ④「キャンドル製作体験会in能代」（R5年度 函館⇒能代）
- ※コロナ禍も情報共有を図りつつ、アフターコロナにより、積極的な相互交流活動が再開
- 活動期間：平成30年度(2018)～令和5年度(2023) ※継続展開中
- 実施場所：秋田県「のしろ白神のみち」×「函館・大沼・噴火湾ルート」 ※相互交流

②活動の体制



③PRポイント

【総意工夫した点や苦労した点】

- ・平成31年2月、第13回「のしろ市民まちづくりフォーラム」をきっかけとして、秋田県「のしろ白神のみち」×「函館・大沼・噴火湾ルート」との交流がスタート。
- ・相互ルートの活動の軸となる「美しい景観づくり」を共通テーマとし、ワックスキャンドル製作や植栽活動等の相互参加に重きを置き、各種活動の共有や人的交流を行っている。

【活動による効果】

- ・ワックスキャンドル製作体験会で作られた〈ミルクィキャンドル〉は「第24回「のしろまち灯り(2023年12月16日開催)」で使われ、能代の夜を彩ることに繋がった。
- ・「のしろ白神のみち」や秋田県立大学が有する木材を利用した景観・まちづくり等のノウハウを函館・大沼・噴火湾ルートにおいても今後展開できるよう検討を進めている。
- ・秋田県と北海道の相互交流を通じて、お互いの地域活動のモチベーション向上に寄与。

STEP1 「のしろ市民まちづくりフォーラム」での相互交流 (H31.2.20)



STEP2 「はこだて花かいどう」での相互交流 (R5.6.10)



STEP3 「キャンドル製作体験会in能代」での相互交流 (R5.11.21)



活動名称

サステナブルな景観づくりマスタープランの再構築と実施

エントリー部門

美しい景観づくり

ルート名称

釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の背景

- ・H19の景観診断は経験や知識が少なく、改善不可能な課題箇所も多く抽出していた
- ・H20のルート景観づくりマスタープランは、持続的改善の仕組みがなく形骸化した
- ・H25からの道路附属物改善では、**時限的で持続可能な改善計画を構築**して試行
⇒**成功！**5年間で63箇所を改善 ⇒ H30年度に「美しい景観づくり賞」をいただく

●活動の目的・目標

- ・時限的で持続可能なルート景観マスタープランを再構築し、継続的に景観を改善する

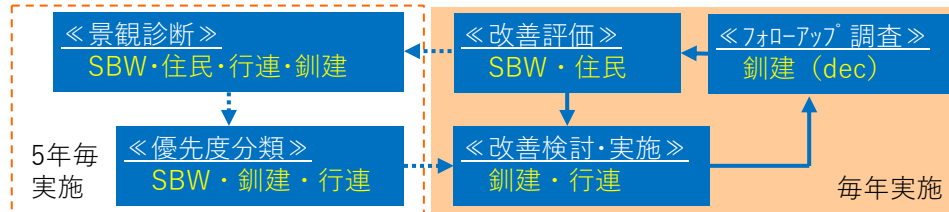
●具体的な取り組み（活動期間と活動場所）

- ・R05に全エリアの景観再診断が完了し、**新しいマスタープランが完成**（表1）
- ・再診断後のエリアで、改善が実施されていることをフォローアップ調査で確認

表1 新しいルート景観づくりマスタープラン構築に向けた取り組み

年度	景観再診断	景観改善の実施				フォローアップ調査
		弟子屈	阿寒湖	中標津	釧路湿原	
H30	弟子屈エリア	2箇所	診断前	診断前	診断前	全箇所実施
R01	阿寒湖エリア	9箇所		診断前	診断前	全箇所実施
R02	※COVID-19で延期			診断前	診断前	全箇所実施
R03			2箇所	診断前	診断前	全箇所実施
R04	中標津エリア	1箇所		2箇所	診断前	全箇所実施
R05	釧路湿原エリア			2箇所		全箇所実施
新しい「ルート景観づくりマスタープラン」が完成						

②活動体制



③PRポイント

【工夫した点や苦労した点】

●H20の景観課題箇所と新規課題箇所(秀逸な道など)の合計200箇所を再診断

- ・改善不可能な課題箇所を除外しつつ、秀逸な道などの新たな課題箇所を抽出

●再診断の結果を踏まえた優先度分類と対応ルールの明確化（表2）

- ・**優先対策検討箇所**－改善検討・実施（改善できない場合には理由を明示）
- ・**対策検討箇所**－将来的な改善に向けた現地確認、情報収集
- ・**経過観察箇所**－マスタープランの景観課題箇所に残して経過観察
- ・**課題箇所から除外**－マスタープランの景観課題箇所から除外

●持続的に実施するための時系列的なルール

- ・毎年実施する項目と、5年に1回実施する項目をルール化し、改善を継続
- ・フォローアップ調査と評価を毎年実施し、地域の景観改善意欲を持続

【活動による効果】

●令和5年度時点で改善が完了した箇所数

優先対策検討箇所：14箇所 対策検討箇所：3箇所 経過観察箇所：1箇所



表2 景観再診断の実施箇所と優先度に応じた分類結果

エリア名	課題箇所の再診断		優先対策検討箇所	対策検討箇所	経過観察箇所	課題箇所から除外	改善完了(R5時点)
	H20抽出	新規箇所					
釧路湿原	29箇所	1箇所	1箇所	5箇所	13箇所	11箇所	0箇所
阿寒湖	21箇所	1箇所	1箇所	6箇所	6箇所	9箇所	2箇所
弟子屈	33箇所	74箇所	22箇所	4箇所	10箇所	71箇所	12箇所
中標津	10箇所	29箇所	9箇所	13箇所	10箇所	7箇所	4箇所
合計	93箇所	105箇所	33箇所	28箇所	39箇所	98箇所	18箇所

活動名称

～住民・観光客にとっての憩いの場・桜の名所を目指して～

エゾヤマザクラの維持管理及び補植活動

エントリー部門

美しい景観づくり

ルート名称

候補) 日高シーニックバイウェイ

①活動概要

●活動の目的・目標

- ・沙流川流域の2町(日高町・平取町)による行政区域の垣根を越えた特徴ある活動の中で、“自然と共生するまちづくり”を目指す活動の一環として、エゾヤマザクラの維持管理及び補植活動を行っている。
- ・日高シーニックバイウェイとして、また国立公園化が予定される日高山脈襟裳国定公園の周辺エリアとして新たな桜の名所をつくり、地域住民及び観光客にとっての憩いの場、ビュースポットを目指す。

●活動内容

A: ひだまりの里(約1.5ha)にて【毎年実施】

- ・エゾヤマザクラの仮植え(毎年苗木を20本ずつ植樹しており、現在計140本)や下草刈り等を実施

B: 富川ふれあい広場にて【令和5年度実施】

- ・ひだまりの里で成長したサクラを掘り起こし、移植(計10本)

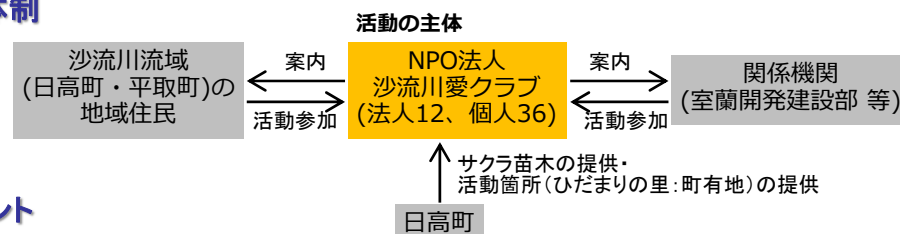
C: 沙流川キャンプ場にて【令和2年度実施】

- ・ひだまりの里で成長したサクラを掘り起こし、移植(計20本)

●活動期間 平成29(2017)年度～ 毎年5月に実施 ※継続実施中(計7年間)

●活動場所 「ひだまりの里」、「富川ふれあい広場」(日高町)及び「沙流川キャンプ場」(日高町)

②活動の体制



③PRポイント

●創意工夫した点・苦労した点

- ・苗木が花をつけるには数年かかるため、まずはひだまりの里に仮植えし、2m程度に育ち開花が見込める株を移植することで、富川ふれあい広場や沙流川キャンプ場ではすぐに桜の花を見ることが可能に
- ・富川ふれあい広場と沙流川キャンプ場に植樹することにより、沙流川上流と下流を網羅
- ・近年増加傾向にあるエゾシカによる食害から桜の苗木を守るため、ネットの整備を強化

●活動による効果

- ・20年に渡るクラブの活動の一つで、「国民の森づくり推進功労者に対する感謝状」を林野庁長官から贈呈
- ・ATWS(アドベンチャートラベルワールドサミット)の日高コースが数時間で完売するなど、沙流川沿道を散策するフットパスコースを含む体験型観光による旅行者が増加



日高町提供のエゾヤマザクラ苗木の植樹



下草刈り



シカ食害防止ネットの設置・補修



サクラの掘り起こし



富川ふれあい広場への植樹



沙流川キャンプ場への植樹



移植後の富川ふれあい広場

② 活力ある地域づくり



1. ～変動する大地との共生/ジオパークは「大地の公園」～
生きている地球と生命とのつながりをジオパークで楽しく学ぶ
(支笏洞爺ニセコルート)
2. **流雪溝活性化プロジェクト**
(萌える天北オロロンルート)
3. ～札幌シーニックの学びの場～
「石山大学」
(札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート)
4. ～地域との連携・企業との連携そして国際的サイクルエリアを目指して～
どうなんサイクルツーリズム推進事業
(どうなん・追分シーニックバイウェイルート)

活動名称

札幌シーニックの学びの場
「石山大学」

エントリー部門

活力ある地域づくり賞

ルート名称

札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の経緯：

・令和2年に、札幌シーニックの石山地区を中心としたメンバーが、65歳以上の男性を対象として地域の中で学ぶ場として『石山大学』を開校。入学資格は、札幌市南区石山地区在住の65歳以上の男性であること。令和6年3月現在、18名が学んでいる。

●活動の目的・目標：

・定年退職後の時間に余裕のある元気な男性達が、地域の中で共に学び、街歩きや農作業、ヒグマ対策のための除草活動や勉強会、雪あかりの活動のお手伝いなどのボランティア活動等の様々な活動に参加することで、地域づくりの担い手を育て、地域を元気にすることを目的とした取組。

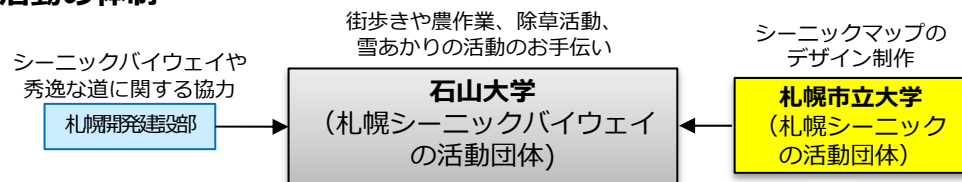
●活動内容：

・毎週水曜日（4月～3月）に、18名の生徒が石山大学に集まり、毎週バラエティに富んだ方々を講師に呼び、地域の歴史・文化・農業・まちづくり等の様々な内容を学んでいる。入学した生徒達も、これまでに得た様々な知識や経験を活かして、順番に講師を担当している。札幌シーニックバイウェイの活動として、札幌市立大学と連携して、札幌シーニックのマップづくりを行ったり、秀逸な道の活動等にも積極的に取り組んでいる。

●活動期間：令和2年度～令和5年度 ※継続展開中

●実施場所：札幌市南区石山

②活動の体制



③PRポイント

【創意工夫した点】

・入学資格を男性のみとしたことで、**定年退職後の男性が生き生きと活躍できる場を創出できた。**

【活動による効果】

・毎週同じメンバーが集まって学ぶ機会を作ったことで、地域課題を実感し、**札幌シーニックバイウェイの様々な活動に参加するメンバーが育っており、活動の参加者が増えている。**現在、石山大学のメンバーは石山の歴史を活かした市民向け講座の開催やヒグマ対策の活動、雪あかりや秀逸な道の活動等、さまざまな**地域づくりの活動**に積極的に取り組んでいる。

●秀逸な道の看板見学と清掃活動の試行及びシーニックに関する意見交換



▲無意根大橋パーキングで「秀逸な道」の看板を見学



▲「秀逸な道」のKP40の駐車帯での清掃活動を試行



▲シーニックバイウェイや秀逸な道について意見交換

●ちえりあと石山大学との連携講座の開催



▲札幌市生涯学習センターちえりあとと石山大学連携講座で、歴史班が石山軟石と定山溪鉄道の市民向け講座を開催



●雪あかりの活動支援

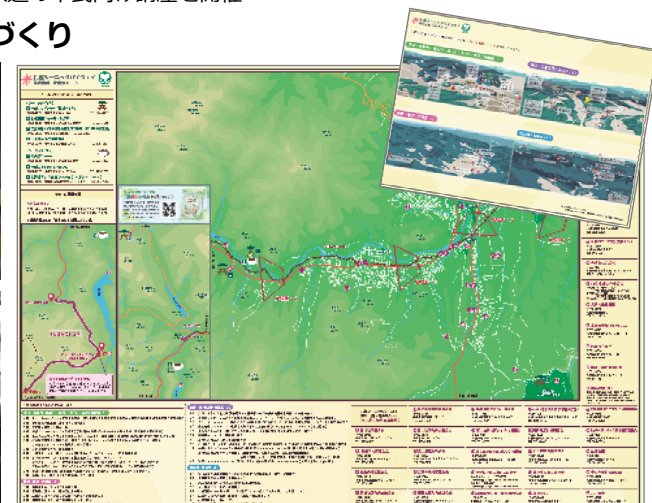


▲石山大学のメンバーがお手伝いをした雪あかり

●札幌シーニックマップづくり



▲マップ作りWSの様子



▲地域の情報を集約した札幌シーニックマップ

活動名称

～地域との連携・企業との連携そして国際的サイクルエリアを目指して～
 どうなんサイクルツーリズム推進事業

エントリー部門

活力ある地域づくり

ルート名称

どうなん・追分シーニックバイウェイルート

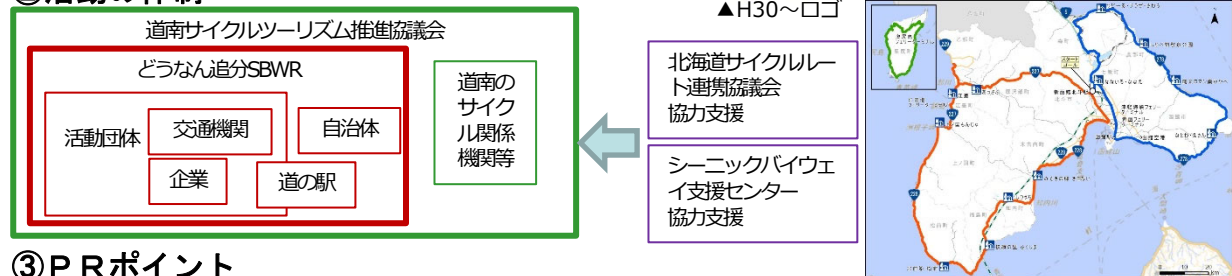
①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の目的・目標： ルート最大の魅力である歴史・文化に触れながら交通過疎地帯の道路活用・観光・SDGsに着目し広域のサイクルツーリズムを国内外に向け進め、官民連携で交流人口の拡大・地域経済の活性化を図る。また地域全体のサイクリングの受入・走行環境整備と情報発信を行う。

- 活動内容： ・2018年（H30）協議会設立。道の駅等にラック等整備。道南連携。
 ・2019年（R1）海外（台湾）との連携ツアー開催。エリアサイクルガイド養成講座開催。
 ・2020年（R2）「マグロ女子会」とコラボ青森連携ツアー開催。コースマップ作成。
 ・2021年（R3）全国初自転車搭載バスと道南いさりび鉄道とツアーで連携。公共交通に自転車をそのまま搭載し移動し、周遊する継続的な実証及び試行を行った。
 ・2022・23年（R4～5）企業連携として五勝手屋とアスリート羊羹開発。
 ・2023年（R5）北海道サイクルルート10番目のルート登録。

●活動期間：2017年度～2023年度（継続中）

②活動の体制



③PRポイント

【苦労した点や工夫した点】

- ・地域の自転車愛好家プレイヤーの協力不足。支援協力への普及活動の強化。
- ・地域や企業への理解や認知を得るための自治体を絡めた全体への情報共有。

【活動の成果】

- ・サイクルツーリズムの活動が地域に浸透し、函館バス・道南いさりび鉄道等公共交通機関・道の駅等の休憩施設・宿泊施設等にも着実に拡大した。
- ・地域老舗企業と連携し、アスリート羊羹を開発。地域経済に活動を繋げる。

【今後の活動予定等】

- ・2024年9月にアイアンマンジャパンみなみ北海道大会開催。国際大会の開催により地域の知名度の向上、大会の継続開催及び地域の再生と経済効果の向上。
- ・今まで積重ねた連携事業を実践として活用し、新たな課題への取組に繋げる。



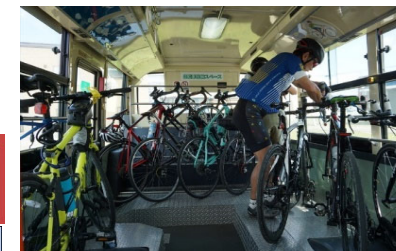
▲H30道南連携モニターツアー



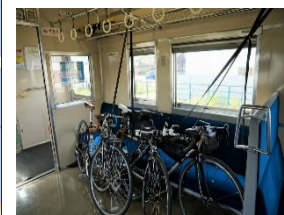
▲R1台湾（海外）連携サイクルツアー



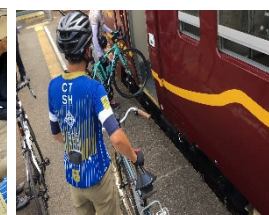
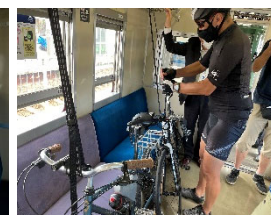
▲R2青森（マグ女）連携サイクルツアー



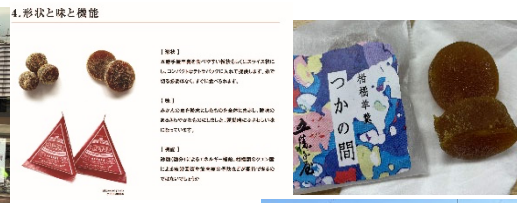
▲R1～自転車搭載函館バスの活用 ツアー時ほか



▲R3～道南いさりび鉄道自転車搭載 ツアー時（七重浜駅～札苅駅間）



▲R4～5 五勝手屋（創業150年）地域老舗との商品開発



▲R6.9国際大会開催決定



▲アスリート羊羹と休憩時

③ 魅力ある観光空間づくり



1. ～地元自治体ともガッチリとタッグを組んだ景観向上活動～
R243シラカバ並木の清掃・剪定活動
(東オホーツクシーニックバイウェイ)
2. 「地域を“つなぐ”」くしろ・ねむろ ぐるっと！スタンプラリー
(釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ)
3. ～伝承の祭り・史実磨き上げと継続的維持活動でつくる観光空間～
地域の歴史・文化を活かした活動による観光魅力向上
(どうなん・追分シーニックバイウェイルート)
4. 『天塩川』を軸とした地域資源・活動PRと歴史文化の伝承
(天塩川シーニックバイウェイ)
5. **エコモビリティで楽しむ！目指せ最東端ツアー**
(知床ねむろ北太平洋シーニックバイウェイ)
6. ～ジオパーク×シーニックバイウェイ×かわたび～
空知にしかない物語・体験 五感で巡るジオパークツアー
(候補)空知シーニックバイウェイ-体感未来道-

活動名称

～地元自治体ともガッチリとタッグを組んだ景観向上活動～
R243シラカバ並木の清掃・剪定活動

エントリー部門

魅力ある観光空間づくり

ルート名称

東オホーツクシーニックバイウェイ

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の目的・目標：

- * R243「秀逸な道」候補区間の主要な景観資源となっている「シラカバ並木」の清掃活動や、樹木の剪定活動によって、「秀逸な道」選定区間昇格に向けた景観的価値の向上・維持を図ることを目的とした取り組み。
- * 清掃活動による美観の向上や、シラカバの整枝剪定・シラカバ以外の侵入樹木の伐採等によって、並木の連続性を際立たせて、道路から見たシラカバ並木の景観的な印象も高める。

- 活動内容：シラカバ並木区間の樹木について、開発局では道路施設としての維持管理、地元的美幌町では景観向上のための維持管理、と協働による維持管理を行っている。地域活動団体は維持管理の現地確認等に参画するとともに、並木区間の清掃活動や樹木の剪定・伐採活動等を実施。

- 活動期間：令和3（2021）年度～令和5（2023）年度 ※継続活動中

- * 実施場所：国道243号美幌町区間（秀逸な道候補区間）

②活動の体制

- * 東オホーツクシーニックバイウェイ（美幌歩こう会 他）、網走開発建設部、美幌町、観光関係団体、道路維持関係事業者など、約40人が参加。

③PRポイント

【総意工夫した点や苦労した点】

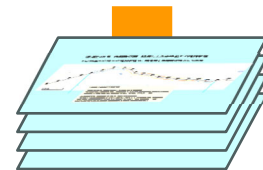
- * 延長約16kmのシラカバ並木区間に対して、活動範囲を3区間設定して毎年1区間毎に活動する計画を立案し、参加者が無理なく実施できるよう配慮。

【活動による効果】

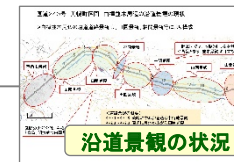
- * 活動を通じて、取り組みの内容が地元新聞にも掲載され「秀逸な道」やシーニックバイウェイの認知度向上にも寄与。
- * 美幌町と連携した樹木維持管理の方針は、町の担当者とも十分調整しながら立案し、町では観光振興事業として剪定作業を実施。

沿道景観の向上や観光的な魅力UPに向けて、
地域活動団体、道路管理者、地元自治体等が連携

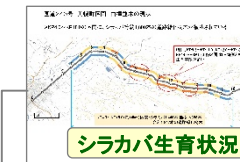
＜網走開発建設部と美幌町・
地域活動団体が連携した
シラカバ並木の維持管理＞



「秀逸な道」
選定区間昇格へ！

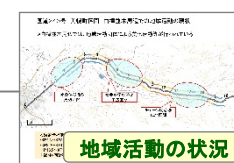


沿道景観の状況

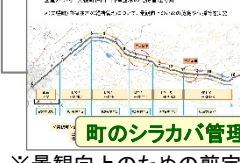


シラカバ生育状況

※シラカバと他樹木の生育を把握

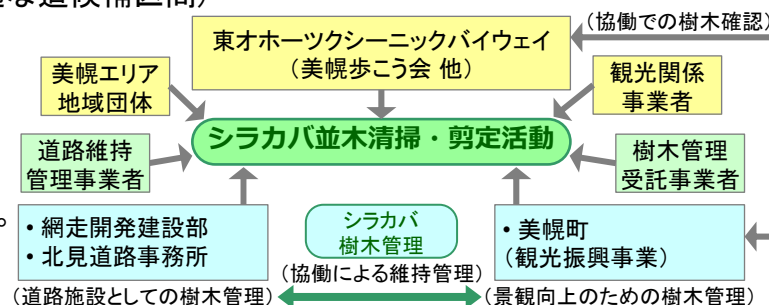


地域活動の状況



町のシラカバ管理

※景観向上のための剪定作業等



▲清掃活動の様子



▲雑木伐採活動の様子



活動名称 「地域を“つなぐ”くしろ・ねむろぐるっと！スタンプラリー

魅力ある観光空間づくり

①活動概要

- 活動の目標：ぐるっと！巡る周遊観光の促進、交流人口の増加
- 活動内容：シーニックカフェ、道の駅、空港を結ぶスタンプラリー
- 活動期間：平成23年度～令和5年度（13年継続）
- 活動場所：釧路・根室管内全域＋一部網走管内
- 応募件数：1,376件
- スタンプ押印数：12,252件（うち3,293件がシーニックカフェで押印）

③ P Rポイント

- 空港や道の駅から  シーニックカフェや 秀逸な道 へ観光客を誘導
- 秀逸な道 の認知率向上のため、秀逸な道特別賞を設定
- 包括連携協定を結んでいる 北海道コカ・コーラボトリングと連携
-  知床ねむる北太平洋シーニックバウエイのシーニックカフェと連携

②活動の体制



【賞品の提供】

-  釧路湿原・阿寒・摩周
シーニックバイウエイ
 知床ねむろ北太平洋
シーニックバイウエイ
 北海道コカ・コーラ
ボトリング
 各道の駅

- シーニックカフェ14施設



活動名称

～伝承の祭り・史実磨き上げと継続的維持活動でつくる観光空間～
地域の歴史・文化を活かした活動による観光魅力向上

エントリー部門

魅力ある観光空間づくり

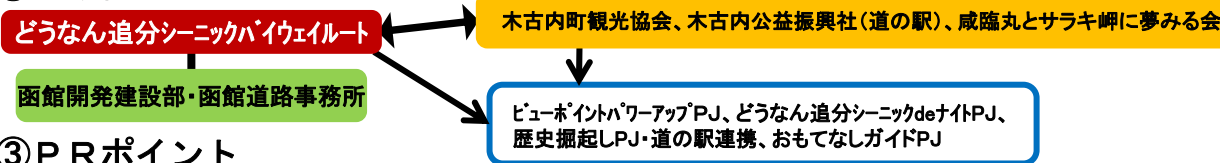
ルート名称

どうなん・追分シーニックバイウェイルート

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

- 活動の目的・目標：2016年北海道新幹線開業や2022年木古内IC開通により、周遊観光ルートが大きく変わること、交流人口の拡大を目指し、地域の歴史・文化、伝承の祭りや史実について磨き上げ、植栽・清掃・キャンドル・案内看板等の活動により、地域資源を最大限に活かした観光空間としての魅力や知名度向上を図る。
- 活動内容：
 - 4月：清掃活動、5月：チューリップフェア、7月：チューリップ球根掘起し
 - 8月：咸臨丸まつり、10月：チューリップ球根植栽・草刈り等
 - 12月：道の駅連携事業、どうなん追分シーニックdeナイト等
 - 1月：寒中みそぎ（みそぎキャンドル）
- 活動期間：平成20年度～令和5年度（当ルート設立より継続活動中）

②活動体制



③PRポイント

【苦労した点や工夫した点】

- ・地域を代表する194年の歴史を持つ「みそぎ祭り」やサラキ岬の史実を特有の魅力として磨き上げ、道の駅にはコンシェルジュ、サラキ岬には説明看板を設置。また、記念誌の取纏めや、国道沿いのサラキ岬でのチューリップ植栽活動、清掃活動を行い、地道な一步一步の活動の中で認知度の向上を図ってきた。

【活動の成果】

- ・北海道新幹線と木古内ICが開通により道の駅「みそぎの郷きこない」は道内でも人気の道の駅となった。また、ルート9町の観光コンシェルジュや「みそぎ祭り」等地域の歴史・文化の紹介によりエリアの魅力をPRできた。
- ・サラキ岬の研究成果として令和3年度咸臨丸がふね遺産認定された。
- ・令和5年に「寒中みそぎ祭り」が北海道無形民俗文化財に指定された。

【今後の活動予定等】

- ・ルート広域で、地域歴史テーマの連携による体験型観光を推進。
- ・地域の歴史文化の重要性を共有し、継続的に観光資源を磨き上げる。
- ・また、後世に伝承するべく、地域での取組と維持管理活動を継続。

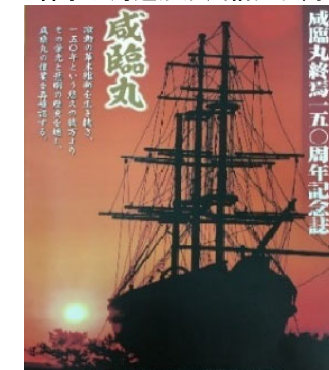


▲寒中みそぎ祭り

神事北海道無形民俗文化財に指定（令和5年度）



▲みそぎキャンドル、シーニックdeナイト



▲咸臨丸終焉150周年記念誌
ふね遺産認定



▲歴史・文化継承
（コンシェルジュ、看板設置）



▲観光空間づくり（サラキ岬植栽活動）



活動名称

『天塩川』を軸とした地域資源・活動PRと歴史文化の伝承

エントリー部門

魅力ある観光空間づくり

ルート名称

天塩川シーニックバイウェイ

①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

- 目的・目標／ルートのメインリバー『天塩川』を軸に、ルート内の資源を繋げ、地域の歴史・文化に触れ・学び、地域特性を活かした**新たな広域的な観光周遊ルートの商品造成と地域経済の活性化**へ繋げる
⇒【観光客】魅力的で多様なコンテンツの提供による**再来訪(リピーター)**への期待、**地域ファン**の増加
【地域(ルート)】**観光消費の増大、雇用の確保(ガイド等)、地域への愛着の醸成(魅力の再確認と共有)**

- 活動内容／**道内**:道北地域への来訪を意識しながら、ルートメンバーが主体となって地域資源と歴史について紹介・PR、ツアー運営を行った。
道外:武四郎の生誕の地がある松阪市において、「天塩川」を通じて地域を知ってもらうための広報・PRを行った。

- 天塩川は、北海道遺産に認定。
- 当ルートでは、「道(Road)」×「川(River)」×「鉄道(Rail)」の**3つのR**を繋ぐ旅を推奨。
- 松浦武四郎は「北海道」と命名した人物で、音威子府村に「命名の地」がある。
- 天塩川については、武四郎が調査した結果を「天塩日誌」でまとめられている。

武四郎まつり

とき 令和6年2月25日(日)
ところ 三重県松阪市「松浦武四郎記念館」他

- 《配布・PR》天塩川シーニックと北海道遺産でPRブースを設け、シーニックバイウェイの取組みや北海道遺産(天塩川)の紹介、北海道のドライブ観光などのPRを行った。
- 《パネル展示》シーニックドライブマップや松浦武四郎足跡、天塩川の歴史等の紹介のパネル展示を行った。
- 《特産品販売》音威子府村の活動団体nociw(ノチウ)の協力により、天塩川流域地域の商品の販売(音威子府村、名寄市、美深町)や、パンフレットの配布などを行った。



道外

北海道遺産
準備・現地調整
当日の運営
※SBW推進協議会
との包括連携企業

②活動体制

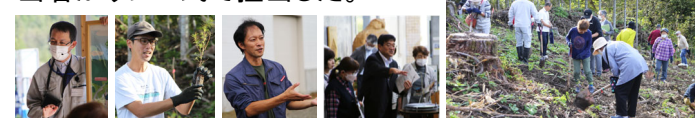


道内

インフラツーリズム モニターツアー

とき 令和5年9月30日(土)・10月1日(日)
ところ 下川町～名寄市～美深町(札幌発着)
★インフラ/サンルダム、天塩川

《受け入れ》ツアー行程は、ルートメンバーと旅行会社、開発局で共に創り、各箇所の紹介や体験は各地域の担当者がリレー式で担当した。



《地域のおもてなし》天塩川SBW(9市町村)のおもてなしとして、特産品を参加者へ提供。ご当地クラフトビールやジン、天塩川の水を使用した飲み物、地域食材を使用した商品を試食を戴いた。



③PRポイント

【総意工夫した点】

- ・各地域の個別の紹介・PRではなく、全体で「天塩川」を軸に繋がりのある企画とした。
- ・参加者・来場者との会話できる時間を重要視し、交流・コミュニケーションを多くとれるよう工夫した。
- ・ツアー参加者に試飲・試食いただいたものは、ツアー中に立ち寄れる先で購入できることを説明、PRを行った。★できないものは逆に特別感あり!
- ・ブースもツアーも「今だけ・ここだけ」の体験や情報を多くし、特別感のある時間を提供した。

【活動による効果(成果)】

- ・北海道に興味のある人・住んでいた人、天塩川でカヌーした人、音威子府蕎麦を買い求めてくる人など様々な想いで立ち寄ってくれ、会話を通じて**地域の良さを知った**。
- ・松阪市民の武四郎に対する想いや知識も豊富で、北海道との繋がりを感ぜられた良い時間であり、**広報・PRを継続して行っていくことの重要性を感じた**。
- ・「サンルダム」(インフラ)が観光コンテンツ(資源)になることを、**ルート内のメンバーで共有**でき、新たな観光の可能性を感じた。
- ・地元ガイドの育成などの重要性も感じるとともに、おもてなしの時間(飲食の提供)が好評価であったため、**モチベーション向上に繋がった**。

活動名称 エコモビリティで楽しむ！目指せ最東端ツアー

エントリー部門 魅力ある観光空間づくり賞

ルート名称 知床ねむろ北太平洋シーニックバイウェイ

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の目的・目標：

- ・フットパスやサイクリング等のアクティビティの活用
- ・花咲線や路線バス等の地域公共交通の活用による地域観光資源の発掘および広域連携による新しい旅のカタチづくりによる地域活性化を目的とした。

●活動内容：

- ・モニターツアーやサイクリングの試行、意見交換会等の実施

●活動期間：

令和元年度～ フットパスの維持管理、ツアー開催、新規フットパスの試行、フットパスを活用したサイクリングの試行、知床半島サイクリングの試行 など

令和5年9月26～29日 エコモビリティで楽しむ！目指せ最東端ツアー、意見交換会

②活動の体制

●活動団体、人数、体制図等



③PRポイント

【創意工夫した点や苦労した点】

- ・フットパスやカヌーなどの地域資源であるアクティビティとサイクリングで繋ぐよう検討することを工夫し、モニターツアーを実施した。
- ・地域公共交通の利用を促進するため、コンパクトな折り畳み自転車を使用するよう工夫し、公共交通での移動による試行を実施した。

【活動による効果】

- ・モニターツアーや意見交換会を通して、地域住民や観光ガイドなど、当該エリアの可能性を再認識でき、今後の継続した活動が見込まれる。

【活動概要】

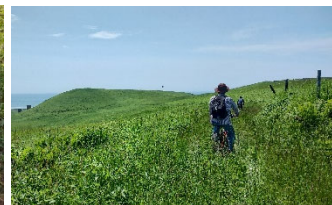
○令和元年度～ フットパスの維持管理、ツアー開催、新規フットパスの試行、フットパスを活用したサイクリングの試行 など



フットパスの管理



フットパスツアーの開催



フットパスを活用したサイクリングの試行

○令和5年9月26～29日

エコモビリティで楽しむ！目指せ最東端ツアー



折り畳み自転車とJR花咲線の輪行



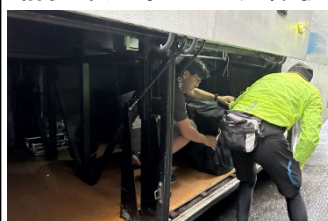
カヌー体験



霧多布湿原トレッキング体験



旧標津線のフットパスとトロロッコ体験



路線バスの輪行



意見交換会



本土最東端到着

活動名称

～ジオパーク×シーニックバイウェイ×かわたび～
空知にしかない物語・体験 五感で巡るジオパークツアー

エントリー部門

魅力ある観光空間づくり

ルート名称

候補)空知シーニックバイウェイ-体感未来道-

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●目的・目標：

- ・空知シーニックバイウェイでは、空知らしい景観・地域・空間を活用した魅力向上の取り組みとして、地域の強みを集約化し「空知」にしかない物語・体験を提供するジオツアーを企画・実施しています。
- ・三笠ジオパーク推進協議会を中心に他団体が連携し取組むことで、それぞれの視点から地域の「当たり前」を深掘りし、空知の景観・動植物・食・歴史・伝統文化（地域のお宝）が「当たり前」では無く凄いことであると、自分たち自身で知ることにも目的のひとつとしています。

●具体的な取り組み：

- ・活動内容：①ルート代表者会議等での空知のお宝（景観・地域・空間）の共有
②空知にしかない物語・体験を五感で巡るジオツアーの企画・実施
③ルートメンバーによるツアープログラムの検証とふりかえり
- ・活動期間：2022年～現在も継続中

②活動の体制

- ・主催：三笠ジオパーク推進協議会 共 催：北海道三笠観光協会
- ・協力：空知シーニックバイウェイルート代表者会議 かわたびほっかいどう 他



③PRポイント

【総意工夫した点や苦労した点】

- ・それぞれの得意分野分野を組み合わせ、普段なかなかできない体験を企画・実施
- ・ロゴマークの表示によるツアーの差別化
- ・ジオツアーの企画・実施を通じた地元への空知シーニックバイウェイの周知

【活動による効果】

- ・2022年度に連携ジオツアーを開始し、2023年度は10本の連携ジオツアーを催行
2024年も催行を予定しており、三笠ジオツアーのプログラムとして定着

Step1

ルート代表者会議で情報交換

空知のお宝（景観・地域・空間）の共有

空知にしかない物語・体験

各団体・機関の情報交換



▲空知シーニックバイウェイルート運営会議



かわたびマップの紹介紹介♪

五感で巡る三笠ジオツアー



Step2

ジオツアーの企画・実施

シーニック&かわたび 五感で巡るジオパークツアー実施



▲三笠ジオツアーPART 1 チラシ＜夏＞



Step3

次年度の企画に向けた検証

ツアープログラムのブラッシュアップ

課題は、次年度の企画に反映



▲8月19日：空知SBWメンバーでジオツアー体験会



▲ジオツアー体験後メンバーによるふりかえり

ジオ弁▶